

## 令和元年度 第1回我孫子市小中一貫教育推進委員会 議事録

開催日時： 令和元年7月8日(月) 10時～11時30分

開催場所： 我孫子市教育委員会 大会議室

出席者： 我孫子市教育委員会教育長 倉部 俊治

我孫子市教育委員会教育総務部長 丸 智彦

我孫子市小中一貫教育推進委員9名(1名欠席)

我孫子市教育委員会小中一貫教育推進室長及び推進室事務局2名

### 1 委嘱式

新規委嘱者 第4号委員 布佐中学校長 小林 浩之

第4号委員 新木小学校長 横山 悦子

新規任命者 第7号委員 子ども支援課長 荒井 康哲

### 2 倉部 俊治 教育長 挨拶

現在の我孫子市の小中一貫教育は順調に進んでいる。平成25年に小中一貫教育の基本方針に取りかかり、平成26年には布佐中学校をモデル地区指定、平成27年には Abi☆小中一貫カリキュラムが出来上がり、平成28年にはカリキュラムの4つの柱をもとに、各中学校区でスタートした。そして今年平成31年4月から、全中学校区で実施となっている。また、昨年度末に各中学校区のグランドデザインが完成し、HPにも掲載している。それぞれ「15歳の姿」を目指して取り組んでいる。

現在は、新学習指導要領の改訂や、子どもたちを取り巻く状況も変わってきているため、小中一貫教育の方針を変更する必要があるが出てきた。よりよい教育に向けて、変えるところは変えて、我孫子市の小中一貫教育を進めていきたい。

### 3 委員長 選出

委員長：内海崎教授

副委員長：細田教諭

### 4 自己紹介

### 5 議事

#### (1)今年度の我孫子市小中一貫教育について(資料1)

- ・平成31年4月より、我孫子市小中一貫教育全市展開ということで、各中学校区でそれぞれの取組が始まっている。各中学校区の小中一貫教育グランドデザインも昨年度末に完成した。(中学校区グランドデザイン資料)今年度は現行の Abi☆小中一貫カリキュラム検証の最後の年。昨年同様にそれぞれの中学校区で検証授業に取組み、それぞれの教育課程に組み込んで実施する。
- ・「小中一貫の日」は、中学校区ごとに設定し、実施となる。
- ・各中学校区で、児童生徒の交流行事、体験活動、また、職員の合同研修会等が予定されている。内容については、今年度も、小中一貫教育広報「繋 TUNAGU」でお伝えしていく。

## 【質疑応答】

- Q. 今年度のカリキュラム検証の予定は、白山中区が「ふるさと」で、それ以外が、「ICT」となっているが、機材の準備等はどうなっているか。
- A. タブレットの配置が、中学校区で40台となっている。1校では10台程度となり、1クラスで使用する場合は、グループなどで活用するような状況。一人一台使用する場合は、中学校区のをまとめて借りることになる。
- Q. ICTのOSはどうなっているのか。PCのOSがwindowsでタブレットがiPadとなると、互換性などに問題が出ないか。また、4中学校区で一斉にICTに取り組むにあたり、機材の不足やそういった支障がでるのではないか。
- A. ICT担当に確認する。

## (2) 今後の我孫子市小中一貫教育の方針の見直しについて(資料2)

- ・平成29年度告示の新学習指導要領を受けて、また方針の策定から5年が経過し、より我孫子市小中一貫教育の現状に沿った方針にするため、改訂を行いたい。
- ・特に、Abi☆小中一貫カリキュラムの内容について、新学習指導要領の内容に沿いつつ、より「我孫子市」ならではの学習内容となるよう、見直しを図りたい。
- ・小中一貫教育の方針について、事務局改定案(資料2)を説明。

## 【協議】

### 〈「目指す子ども像」について〉

- 目指す子ども像の項目の中に、「自己を肯定する心」が入った理由は何か。
- 自分に自信が無い子どもが多い実態から、まずは、自己肯定感を高めて、がんばる気持ちや意欲を持って取り組んでほしいという思いから入れた。「自尊感情」という表記があるが、それを具体的に表現したいと思った。
- 自尊感情、自己肯定感、自己を肯定する心、自信を持つ心、いろいろな表現が考えられる。自信を持つというのは、いろいろな関係性の中で、自分の立ち位置がはっきりわかるということ。自己を肯定する心と、自信を持ってほしいという願いは繋がらないのではないか。
- 自己有用感という言葉がある。他人にも頼りにされるということ。こちらの方が適するのではないか。
- 自己肯定感という表現だと、狭くなってしまう。自信を持ってほしいのなら、自己有用感のほうがよいかもしれない。言葉や表記については、もっと(適切なものを)探してほしい。
- 豊かな心を育てるとしたときに、有用感であれば、周りの人から必要とされる、周りの人との関わりが生まれる。自己肯定だと、個人だけのことになってしまう。

### 〈「期待される効果」について〉

- この項目については、現在すでに小中一貫教育を実施し、グランドデザインまでできているのだから、「期待される効果」ではなく、今までの取組の中でやってきたことについて検証し、改善すべきところを示して、それに向けてどのように改善を進めていくかが示されなければいけない。その方が、保護者もわかりやすい。教職員の意識が課題であるとするなら、教職員へのアンケートの実施が考えられる。しかし、定量確保が難しいようならば、これまで関わってきた職員と、新規職員へのインタ

ビューを実施し、質的な内容をとらえれば、定量を求めなくても見えてくるものがある。本来は子どもたちや保護者に実施できると良いのだが。また、抽出調査として、最初にモデル地区として取り組んだ布佐中学校区と比較的取組の遅かった中学校区を比較するのも一つの方法である。

#### 〈小中一貫教育の施設について〉

○我孫子市は、小中学校が、それぞれの建物にある状態で行っているので、分離型である。一体型とするには、施設の新設が必要となってくるので難しいだろう。新設については、児童生徒数の減少に伴っての義務教育学校の例がある。

○一体型のメリットは、小中学校の校舎が一緒なので、中学校3年生が小学校1年生を見て、体感しつつ自分の来た道(成長)を振り返ることができるのが、一つある。中学校だけでは、3年間しか振り返れない。子どもたちに多様性が生まれる。

○他市の学校統合の様子を見ると、小学校児童数50人以下、中学校生徒数100人以下や、複式学級といった事情があり、保護者の理解を得やすいというのがある。しかし、我孫子市はまだしばらくはそういう状態にはならない。もし(一体型を)進めるのなら、前向きに、よりよい効果をねらってやりたいと思う。

○本気で(一体型に)取り組もうと思って考えると、布佐中学校は10教室余っていて、布佐小学校が単学級、布佐南小学校も(単学級)である(ため、収容は可能かもしれない)。しかし、布佐南小を入れると、学区が広すぎる(という課題がある)。各学校の実態に合わせる必要がある。

#### 〈授業でつなぐことについて〉

○年間指導計画のそれぞれの教科にきちんと位置づけて、人で繋ぐ必要がある。他市では、兼務発令を出して、教員が小中学校を兼務して、算数、数学の授業にTTで入っている。授業時数、職員定数の問題はあがるが、基礎学力の定着の面では有効である。小学校でのつまづきがわかった上で、中学校での指導につながる。教員の配置に工夫が必要である。

○プログラミングも、中学校2年生の技術で授業がある。このあたりも、小学校と連携できるのではないかな。

○兼務については、我孫子市でも平成26年に2件実施したが、使い方が徹底していなかった。今はやっていない。船橋ではうまくやっている例があるが、これは小中学校が1校ずつで、かつ施設が隣り合っているという条件の下である。今後、また検討したい。

○小中学校の兼務を考える場合には、当然その日のうちに、小学校と中学校を行き来するような形になる。時間割の設定はどうするのか。

○君津市では、小学校の算数少人数加配教員が中学校の数学のT2を兼務している事例がある。

○4月の時点で、小中学校の教務主任が、時間割を組み、なるべく変更の無いように運営する。

○実際に5年生の算数で、通常2クラスが、この時間だけ3クラスになって授業を受けている。教科担任制等、こうした仕組みを保護者にも周知を図り、理解を深めてもらった方が良い。ただし、教える先生によって、わかりやすさが変わるという子どもの声もある。

○物理的に兼務は難しいと感じる。それよりも、小中学校の両方に勤務してみると、理解が深まる。小学校の先生にも中学校で何年か経験してほしいと思っている。

○大学では、複数免許として、小学校、中学校両方の免許を取得するようにさせている。実習等で、両方の校種を体験できるようにしている。

(3) Abi☆小中一貫カリキュラムの改訂計画について(資料2の別紙と資料3)

・今回の改訂では、新学習指導要領の内容に沿うこと、ふるさと教育を含め、より「我孫子市」の特色を打ち出したカリキュラムにすること、そして、学校現場において無理なく実施していただくために、現在行われている学習との関連を図り、整理することをねらいとしている。

・Abi☆小中一貫カリキュラムの事務局改訂計画案について説明(資料3)

〈共通カリキュラムの項立てについて〉

○これまで4本だったカリキュラムの柱が、6本になるのか。カリキュラムだけを実施すればよいというものではない。目指すものは、我孫子の教育のねらいに掲げられている内容であって、子どもたちの育成である。我孫子市の特色として小中一貫教育の目玉にするというのなら、柱については、もっと絞り込み、その脇を支える形の方がよいのではないか。

○我孫子の先人を道徳で3人学習するというが、子どもたちが住む中学校区によって、取り上げたい人物は異なってくると思うが、それはどうするのか。

○道徳については、教科書教材の代替となるよう、価値項目に合わせて、我孫子の先人を教材化して授業ができるようにしたいと計画している。そのため、現在候補としている3人については、その価値項目に合わせて選出している。なお、それぞれの地区の先人について学ぶという点では、共通カリキュラム案①の Abi-ふるさとにおいて、各教科と関連させながら学べるように考えている。

〈Abi-特別活動について〉

○特別活動とくくると、狭くなってしまう。「いのち・こころ・からだ」の学習や「食育」を入れるにしても、キャリア教育として広く定義しておいた方がよいのではないか。ちなみに、大学では、特別活動とキャリア教育は分けて授業を行っている。我孫子は、意図的にこれらの内容を「特別活動」に入れる方向で進めるのか。

○教育課程に位置付ける上で、具体的にどこの時数で組み込むかと考えたときに、特別活動と考えた。しかし、これは事務局内でも、検討事項となっていた。

○キャリアにしておいた方が広い。特別活動は学習指導要領にしっかりと定義されているため、難しいのではないか。

○特別活動でやるというのは、年間の指導計画のうち、学級活動35時間のどこに、9年間で位置付けていくこと、系統立てて、いつどこでやるのかを明確にするという意味合いだととらえた。これを、はっきりさせなければならない。

○特別活動でやるというのなら、定義づける必要がある。

○「いのち・こころ・からだ」の学習は、まだ中学校には位置づいていないということだが、やるとしたら保健体育になるのではないか。中学校に広めることは大切だと思うが、特別活動に入れてしまうと、難しいのではないか。

○教科横断的に年間指導計画に位置付けて、学年によって、どの教科で、いつ、どこでやるのかというのを設定するとよい。

〈Abi-English について〉

○教科化が進み、これまでの指導案等は削除するということだが、過去のものも、データ版で共有できるだろうか。

○現時点で、デジコンに掲載し、共有できる状態してある。これは、引き続き残していきたいと考えている。

(4) 今後の計画について(資料4)

・今年度中に、小中一貫教育の方針を固めたいので、例年は第2回を2月に設定しているが、今年度は11月に設定し、今日いただいた意見を反映させ、整えたものを皆様に提示し、承認を得ていきたい。

・カリキュラムの改訂作業には、長めに時間をいただいて、じっくり丁寧に進めていきたい。

**【確認事項】**

○方針を見直すこと自体については、承認にということによろしいか。(承認)

○見直し案については11月まで、また、カリキュラムについては長期計画で取り組む。

○第2回の推進委員会議の日程については、早めに提示してほしい。

○本日の資料について、今後気づいたことがあれば、事務局に連絡する。

以上